

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年 6月 4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2874001080		
法人名	社会福祉法人 本覚寺苑		
事業所名	グループホーム みろくの里		
所在地	兵庫県姫路市花田町加納原田145-7 (電話) 079-253-8169		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成21年 5月21日	評価確定日	平成21年 6月 4日

## 【情報提供票より】(平成21年 4月30日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 2人, 非常勤 9人, 常勤換算	8.1人

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 / 20,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円
敷金	有( )円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 450 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円 ・ 1ヶ月( )円		

## (4) 利用者の概要(4月30日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護 1	0	要介護 2	0
要介護 3	4	要介護 4	5
要介護 5	0	要支援 2	0
年齢	平均 87.7 歳	最低 81 歳	最高 95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	本覚寺診療所、森下神経内科診療所、有方歯科医院、石川病院、他
---------	--------------------------------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、姫路城から2キロ程東の国道2号線から300メートル程北に入った所に位置し、民家が立ち並ぶ中に平屋作りの建物としてある。周りは田畑と緑に恵まれて、ゆったりとした気持ちで過ごせるホームである。事業主体でもある本覚寺苑も近く、大きな木が茂り小鳥のさえずりが聞こえ、絶好の散歩のコースとなっている。ホームの玄関先には近隣の方が持ってきたプランターに四季折々の花が植えられ、家庭を感じさせる。遊びを取り入れたりハビリ、「プレイ&トレーニング」は好評で、楽しんで取り組んでいる。隣には保育園があり、園児の行き来もあり、幼い子たちとの触れあいは、入居者の楽しみのひとつとなっている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	前回評価では、理念の共有、市町との連携、家族報告、同業者との交流、事業所の多機能性、終末方針、栄養・水分についての7項目が示され、家族への報告と同業者との交流、市町との連携、水分摂取については具体的な改善が示された。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	管理者はホームと市町との連携等、課題に具体的に取り組む事を感じ、計画作成担当者は、事業所職員の頑張りを確認できた。また、他の職員も改めて災害時等も含め地域との連携の大切さを認識し、地域密着の浸透性を感じていた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	ホームの運営推進会議では、ボランティア及び行事について討議し、嚙下予防体操の導入と家族交流会の開催と内容の報告、ターミナルケアと感染予防及び職員の名札表示の説明があり、これらを今後も活かす方向で話し合われた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	運営推進会議に家族も参加し、家族の意見を聞ける場所もできた。また面会時に、食堂のテーブルで家族と利用者が談笑され、足元の寒さから家族からオイルヒーターの導入を提案されて対応できた。家族会の活性化も工夫している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
重点項目	法人の特別養護老人ホームは開設から34年が経過し、診療所とともに地域に受け入れられている。このため、地域行事へは特別養護老人ホームとグループホームにそれぞれの案内があり、交流ができています。地域ボランティアは、こどもから高齢者までが奉仕の内容を分けずに援助している。運営推進会議、災害・火災訓練での連携、外出不明者捜索協力等連携している。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	介護保険制度の施行後につくられた「いのち1番 にこにこ2番 質の介護にプロ意識」の法人理念に、地域密着としての事業所独自の「仲良く地域と支えあい」を加え、事業所と地域が認知症介護を理解し、利用者や家族とともに支える理念とした。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は新任職員研修をはじめとし、職員全員に機会があるごとに周知されている。事業所は、理念を基に年度目標の「暖かい手と手がふれあう心の介護」も掲げ、毎朝の申し送り時に職員で唱和し業務に取り組んでいる。年度目標は家族からも共感を得ている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の特別養護老人ホームは開設から34年が経過し、診療所とともに地域に受け入れられている。このため、地域行事へは特別養護老人ホーム、グループホームそれぞれに案内があり、交流ができています。地域ボランティアは、こどもから高齢者までが奉仕の内容を分けずに援助している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はホームと市町との連携等、これまでの評価での課題が改めて確認し、具体的な取り組みを実践する事を感じ、計画作成担当者は、自己評価で事業所職員の頑張りを確認でき、今後の意欲の活性化ができた。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、当初慣れない会議でぎこちなさがあったが、回を積み重ね、現在は内容も充実し、ホーム運営に参考になる意見も多く出て、また事業所からの問いかけにもその場で率直な生の声が聞こえ、事業所にとって大変有意義な会議になってきている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>これまでは連携の機会が少なく、グループホームの状況が伝わっていなかったが、本年度は管理者がグループホームの連絡会議の役員として会の運営に携り、市との調整の機会も増える。この機会にグループホームの現状を伝え保険者との連携を強化する。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に、外出先で撮影したビデオを見ていただき、楽しまれた様子を見てもらったり、写真を渡して様子を報告したりしているが、書面による定期的な報告は行っていなかった。</p>		<p>職員からの提案もあり、今後は請求書等家族宛文書に生活の様子を記入して報告することを期待したい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に家族も参加し、家族の意見を聞ける場所もできた。また面会時に、食堂のテーブルで家族と利用者が談笑され、足元の寒さからオイルヒーターの導入を提案され、対応した。家族会の活性化も工夫している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は、利用者、家族に職員の異動の事前説明を行い、法人内での異動がほとんどであること等の安心感を与え、事前に想定されるリスクについては、職員と話し合う機会を持つようにしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修に対する意欲は充分あるが、介護研修とともに同業者との交流の機会の確保や他事業所の見学等、自らの業務を振り返りたい思いもある。事業所は職員の希望を聞き入れて、年間研修計画を作成している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、本年度はグループホームの連絡会議の役員として会の運営に携わり、職員も連絡会議の研修に参加し、交流も行う。		職員は他の事業所の見学を強く希望している。事業所としての支援を期待したい。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居待機期間に家族との連絡調整を密にした事により、在宅での介護が限界になる前に入居できたり、こどもの家を転々として介護を受け、不安定な心理状態で入居に至ったために、ホームは「通い利用」を5日程試みるなどの工夫をした。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の業務で常に理念である「にこにこ笑顔」の実践を心がけ、利用者の笑顔をうれしく思い、話をし、そして作業や洗濯とともに行きコミュニケーションを大切にしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に家族から本人の意向等を用紙に記入してもらい、入居後は本人と接しながら、会話等の話題から思いを引き出し、意向の把握を行って、支援に繋げている。</p>		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居当初の介護計画は、家族から得た本人の意向と家族の思い等を中心に反映させた計画を1ヶ月を目処に作成している。この計画は3ヶ月、6ヶ月を期間とし、職員は計画に基づいた介護を行う。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>現状では状態変化時等の計画の見直しはすぐには対応できていないが、状態によって3ヶ月に一度は行うようにしている。その際には、月1回の職員カンファレンスで話し合い、意見を計画に反映させている。変化等少なく落ち着きのある利用者の計画の見直しは6ヶ月としている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>事業所職員、地域ボランティアの方、利用者家族を対象として、法人内の地域包括支援センター職員により認知症サポーター研修を事業所内で開催し理解を深めた。看護師の常駐はないも、同一法人の診療所とも医療的連携もとれている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主たるかかりつけ医は法人内の診療所を中心として関係を築き、適切な医療が受けられるように支援しているが、希望によるかかりつけ医への受診は、家族を通して指示を受けている。専門医への受診については、事業所職員も付き添い対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	地域密着形態により遠方等の距離のある家族が少なくなり、現在は重度化・終末期の事業所での対応を希望する家族はほとんどなく、方針も明記していない。法人の方針としては、診療所、特別養護老人ホームとの連携を重度化、終末期の方針としている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	玄関の面会簿については、家族が記入後は他者の目に触れないように対応したり、入居者の生活や尊厳をグループホームの運営の中で守るように取り組んでいる。		管理者はグループホームでの個人の尊厳やプライバシーについて具体的に把握し、職員に指導するとともに、意識を共有できる事を期待したい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの利用者は現在女性ばかりであるが、平均年齢が87.7歳と高齢であり、なかには朝の体操を拒む利用者もいるが、無理強いせず本人のペースを大切に支援している。職員は煮魚の味付けなど調理についても人生の先輩である利用者に教わってもある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は1ヶ月の予定は立てるが、ホームの畑で採れた作物がある時は献立の内容も変え、利用者に楽しみを提供している。準備・後片付けもできる人は手伝っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回(火・木・土)曜日を決めている。利用者の重度化時は法人内の連携で特別養護老人ホームの浴室の利用も可能である。菖蒲湯やゆず湯等の季節に合わせた湯も行っている。時に介助の職員と鼻歌を歌い楽しむ時もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの近くの月に一度だけ営業する高齢者向け喫茶店に行き、コーヒーを飲みつつ雰囲気を楽しみ、また、ホームの畑で収穫した豆の調理準備を手伝い、仕事をして自分が役に立っている事を喜んだりもしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出については利用者の思いを尊重し、随時対応しているが、記録は整理されていない。特別養護老人ホームには毎月1回は出向き、交流している。個人的なドライブや買い物もほぼ毎日交替して順番に外出はしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は20時に施錠はするが、日中は玄関のセンサーを効率的に使用し施錠はしていない。開設から9年になるが、この間に数回は地域の放送を使い、外出者の捜索等協力が得られている。法人内での協力・連携もある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年3回の夜間想定も含んだ火災訓練を実施している。職員連絡網の掲示もされ、近隣職員は災害時には真っ先に駆けつけるように指示されている。また、地域の連絡網もあり、緊急通報システムも設置されている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事の摂取量は食後に記録し、健康管理を行っている。水分摂取は、昨年の評価を活かし、職員は利用者に意識して摂取してもらうように声かけし、以前よりも配慮している。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関の外には、背もたれのある椅子が置かれ利用者がくつろいでいた。内側には、地域の人の大きな作品としての絵が飾られ、また事業所内部は木材の梁などを多用し、暖かく親しみのある空間となっている。台所、食堂、居間、廊下もそれぞれに和風の家具や壁掛けが飾られ、落ち着いた雰囲気となっていた。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は広々としていて、生活するには申し分のない広さが確保されている。ベッドと整理ダンスは備え付けであるも、それ以外の家具や生活用品は自宅で使い慣れた品物を持ち込まれ、生活観があり、居心地のよい居室となっていた。</p>		

 は、重点項目。